

## 第1回堺市水道ビジョン懇話会（議事概要）

- 1 開催日 平成27年7月2日（木）午後3時から午後4時15分
- 2 場 所 上下水道局4階研修室
- 3 出席者 ○構成員（敬称略 順不同）  
伊藤禎彦、鋤田泰子、林由佳、福岡勇  
○上下水道局（所属順）  
上下水道事業管理者、上下水道局管理監兼局次長、  
上下水道局理事兼経営管理部長、営業部長、上水道部長ほか  
○その他 傍聴者 1名、報道関係者 1名

### 4 議事概要

議題1 上下水道事業管理者挨拶（別紙2）

議題2 構成員紹介（資料1）

議題3 座長の互選・職務代理者の指名

【座長の互選】

伊藤構成員を座長に決定

【職務代理の指名】

伊藤座長より鋤田構成員を指名

議題4 水道ビジョン懇話会の開催趣旨と進め方

資料2「堺市水道ビジョン懇話会の開催趣旨について」及び資料3「堺市水道ビジョン懇話会の進め方について（案）」について事務局説明

### **水道ビジョン懇話会の開催趣旨と進め方**

（鋤田構成員）

本懇話会の位置づけ、懇話会からの意見の取扱いはどのようになるのか？

（事務局）

本懇話会は、地方自治法の条例で設置する附属機関ではないため、法律上の制限により意見を取りまとめる権限がない。構成員の皆様からいただいた意見については、ビジョンをまとめるにあたり活用させていただき、本市が主体として策定することとなる。

（伊藤座長）

本懇話会の性格としては、我々は、堺市が作る水道ビジョンに意見を言うものである。

意見をどう扱うかは、堺市の判断になる。あくまで堺市が作るビジョンである。

### **広域連携の考え方**

(**鍬田構成員**)

大阪府の動きとして府域一水道の考え方で広域化が進められており、また、企業団は末端給水事業体との統合を進めている中で、堺市は企業団から100%受水しており、すぐにも統合する可能性もあると考えられる。この10年計画を策定するにあたり、企業団との統合に関してはどのように考えているのか。

(**事務局**)

企業団と堺市の統合について、具体的な検討は行っていない状況。ただし、企業団が設立されるときに、42市町村の首長会議で府域一水道をめざすと合意されていることから、将来的には、堺市も企業団との統合の方向へ進んでいく。現段階では、水道料金の問題や施設整備水準が今後どのように推移していくのかなど、多くの課題が残っているため、これらについて企業団や周辺市町村と協議し、お客様サービスの低下につながらないような方向で統合を進めていきたい。

(**鍬田構成員**)

ビジョンの中では企業団との統合については触れないということか。

(**事務局**)

企業団の行う用水供給事業と堺市の行う末端給水事業とでは、事業自体が異なることから、近隣の市町村との広域連携によるサービス提供のあり方などについて、このビジョンの中で検討していきたいと考えている。

## **議題5 本市水道事業の概要**

資料4「堺市の水道事業」について事務局説明

### **幹線管の耐震化率**

(**鍬田構成員**)

配水支管の耐震化率は高いが、配水本管（幹線管）は低い。配水本管はどのような管種でどのような状況になっているのか。

(**事務局**)

政令市の幹線管の管種を調べてみると、他の政令市では、耐震管と位置付けられている鋼管が多い。堺市は、過去、非耐震管であるダクタイル鋳鉄管を幹線管に採用していたため、鋼管が非常に少なく、耐震化率が低い状況となっている。

幹線管の更新には、時間と予算が非常にかかるため、土壌調査などにより幹線管の劣化状況（推測）を把握したうえで更新の優先順位を設定しており、現在は、年4kmを目標に計画的に進めているが、全体の延長は200kmあるため、耐震化率としては上がり難いのが現状である。

#### **現行計画の評価**

（林構成員）

資料2にあるとおり、国からインフラ長寿命化基本計画や経営戦略等の策定が要請されているが、これまでも施設整備計画、経営計画を策定し、計画に基づき事業を進めていると思う。次回で良いので、その進捗状況や財政収入と投資計画とのずれなど計画と実績を踏まえた形で、現状を評価した資料の提示をお願いしたい。

#### **ポリエチレン管の割合**

（伊藤座長）

ポリエチレン管の比率がH15年ぐらいから、増えているのはなぜか。

（事務局）

口径75ミリ以上は、耐震性を有するダクタイル鋳鉄管で布設しているが、50ミリ以下については、ポリエチレン管を使用している。また、給水管等もポリエチレン管を採用している。維持管理面も含めてポリエチレン管に統一している。

（伊藤座長）

人口減少等をにらみながら、縮径する際にポリエチレン管を使用しているということか。

（事務局）

縮径するためにポリエチレン管を使用しているのではなく、本市では口径50ミリ以下の管路はすべてポリエチレン管を採用している。

なお、管路更新時に縮径することでポリエチレン管となる場合もある。

## お客さまとのコミュニケーション

(伊藤座長)

お客様サービスの向上の部分で、情報発信が大事であると認識されているが、情報を出せば良いというところにとどまっているように思う。一步進んで、お客さまとのコミュニケーション、さらには双方向のコミュニケーション、そしてお客さまと一緒に水道事業を作っていく協働という観点が重要である。このような視点に立ってビジョンを策定してほしい。

## 料金改定の考え方

(鎌田構成員)

費用の半分が受水費であり、減価償却費も多い。堺市では、受水費は固定費とみなせる部分と考えられるため、水需要が減少していけば水道料金を上げない限り、将来的には赤字状態になると思う。その中で、今後の水道料金について、どのような方針を持っているのか。

(事務局)

水道料金収入は減っていく方向にあるが、現状の料金水準をいかに維持していくかという視点で事業を進めていきたいと考えている。そのうえで、できるだけコストを縮小し、適正な更新ができるように計画を作っていきたい。料金の引き上げについては、この10年間は考えていない。

(事務局)

単純に法定耐用年数で更新するだけでは料金が上がるが、今回のビジョンではアセットマネジメントの考えに基づき、施設の長寿命化や事業の平準化を行うことで、料金水準を維持できると考えている。お客さまとのコミュニケーションという話もあったが、見える化の一環として、水道事業を取り巻く厳しい現状もお客さまに示したうえで対応していきたい。

(鎌田構成員)

やはり10年後のことを考えると明らかに収入が減ってくる。職員数もかなり削ってやってこられたと思うので、これ以上の人件費の削減も難しいと思う。そうなれば、最後は料金を上げるしかないと考えられるが、ビジョン策定するこの場面ならば、いろんなシミュレーションを検討できるので、前提として値上げをしないでと決めつけしないで。値上げのシミュレーションも考えた方がよいと思う。

## **堺市と同じような事業体との比較**

(林構成員)

政令市で、人口や管の延長など堺市と条件が似かよっていて、比較対象となる市はあるのか。

(事務局)

比較対象は面積や人口密度、水源なども踏まえて考える必要があり、一概にどの都市というのは難しい。次回まで、時間をいただきたい。

## **困難な課題について**

(福岡構成員)

収入が減っていくなか、事業の優先順位をどうするか、調整をどうするかというところなどについて悩んでおられると思うが、率直な意見を聞かせていただきたい。

(伊藤座長)

悩みの一つが鉛管の取替えであろうし、他にも幹線管の耐震化が進んでいないなど、課題はたくさんあると思う。しかも、それぞれが大事な課題であるため、どちらを優先すべきという意見は言いにくい。並行して複数の大事なことを進めるとというのが行政の立場だと思う。

今後、堺市の考えをご提示いただきながらこの場で考えていきたいと思う。

## 出衆上下水道事業管理者 挨拶

堺市上下水道局事業管理者の出衆と申します。

第1回堺市水道ビジョン懇話会を開催するにあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。

構成員の皆様方におかれましては、日頃より本市上下水道事業に格段のご理解とご協力を賜りまして心より厚くお礼申し上げます。

また、このたびは公私何かとご多忙の折りにもかかわらず、本懇話会委員へのご就任をお願いいたしましたところ、ご快諾を頂きまして誠に有り難うございます。

私は、この4月に、初めて上下水道事業管理者として就任させていただきました。

前任では、同じ地方公営企業の病院事業において、5年間、特に経営の改革に取り組み、その集大成としまして、昨日の7月1日に、新たに堺市立総合医療センターをオープンさせていただいたところです。

水道事業は、病院事業とは大きく異なり、膨大な資産を抱える装置型事業です。また、本市の水道事業は、100年を超える歴史のある事業で、蛇口をひねればおいしい水が出るという当たり前のところを維持継続し、将来にわたりお客さまの信頼を得ていくことは、非常に重責を担う事業であると認識しているところです。

水道事業を取り巻く環境は、内外的にも厳しい状況であり、特に今後は、人口減少への対応や老朽施設の資産管理などが大きな課題となります。

本懇話会においては、主に『人口減少社会における水道事業のあり方』、また、『持続可能な財政運営のための経営基盤の強化』について、専門的な視点からご意見を賜り、中長期的視野に立ったうえで、今後10年間の堺市水道事業の方向性を示す、堺市水道ビジョンを策定していきたいと考えているところです。

本市では、残念なことですが、昨年度、二度の事故を起こし、お客さまの水道事業への信頼を損なうような状況が発生しております。これは、お客さまや職員間のコミュニケーションが不足していたことが一番大きな原因だったと考えています。

これらを踏まえ、今年度の4月からは、『し・ん・ら・い k i ・ Z u ・ k u (気付く、築く)』を上下水道局の行動規範として、改めてお客さまの信頼を得られるよう事業を進めているところです。

専門家の皆様から貴重なご意見を賜り、より良いビジョンを策定していきたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

簡単ではございますが、開催にあたり私からのご挨拶とさせていただきます。